



＜本校の授業改善に向けた視点＞					
指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> 子供の知的好奇心や学ぶ意欲を高めるため、教材やICTを含めた道具の活用を工夫し、する。 児童の学習活動のみとりを大切に、発達段階や個に応じた指導・特別支援教育を実施する。 ゲストティーチャーや校外学習等で地域素材を生かした体験的な学習の充実を図る。 繰り返し学習などで、基礎・基本の徹底を図る。 グループで学び合う活動を積極的に取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導計画に基づいた授業の実施 少人数指導教師・学力向上支援講師・指導法改善講師とのTＴで授業改善を図る。 2～6学年の算数において、少人数指導を実施し、子供一人一人に応じた指導を進める。 図書館モデル校の管理員・図書館、地域のボランティア等の計画的活用。 体育集会や休み時間、家庭との連携による長期休業期中の取り組みを生かして体力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 区教育課題研究校 国立政策研究所 協力校として年間を通して教科調査官を講師に招き研修を深め資質向上を図る。 校内研究と各年次研修を連動させ、全体の資質向上を図る。 研究授業を公開し多くの視点から授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科における評価計画及び評価規準の見直しを図り、適切な評価活動を行う。 講師や指導員を生かし、子供一人一人が学ぶ喜びや学習の伸びが感じられる評価を工夫する。 児童による授業評価および保護者、学校評議員による学校評価を、授業改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営方針をはじめとする様々な情報を、学校により、保護者会、ホームページなどで発信する。 学校公開や道徳授業地区公開講座などの行事を通して、積極的に教育活動を公開するとともに、家庭や地域の参画を求める。 学校・学年などを通して、生活習慣の確立や、家庭学習、体力作り等と呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動体験、出前授業など中学校との連携を図り、高学年に進学への希望をもたせ、学ぶ意欲を高める。 小中一貫グループでの授業やカリキュラムの連携を進める。 小中一貫グループを基軸とした地域ぐるみの取り組みで児童の規範意識や安全への意識を高める。